

令和2年度 府立網野高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（中間評価）

| 学校経営方針（中期経営目標） | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点（短期経営目標） |
|--|--|--|
| <p>1 新たな教育目標、教育方針（育成する力）、育てる生徒像を教育活動の中に明確に位置付け、その具現化を図る。</p> <p>2 生徒信条「青年は未来を信じ使命に生きる」の精神にのっとり、将来に対する夢や目標を持たせ希望進路の実現に向けて挑戦する姿勢を大切にする。</p> <p>3 地域の中학생から選ばれる魅力ある学校づくりを推進する。</p> | <p>（成果）</p> <p>1 広報紙発行やホームページのタイムリーな更新によって、本校の特色・魅力を広く発信できた。</p> <p>2 オリンピック・パラリンピック教育の推進では、啓発看板の設置やポッチャ体験に取り組むことで、取組の拡大を図ることができた。</p> <p>3 ICT活用やアクティブ・ラーニングを取り入れた授業が増え、授業評価アンケートで主体的な学びが工夫されていると回答した生徒の割合が増加した。</p> <p>4 5分前登校が定着して、落ち着いた学習環境が維持できている。また、部活動加入率も高水準で維持できた。</p> <p>5 チューター制をはじめとする丁寧な面談や面接・小論文指導等により、就職希望者全員の内定や国公立大学推薦入試での合格等、希望進路の実現を図ることができた。</p> <p>6 企画経営科では、専門学科教育を充実させ、地域貢献・地域創生の取組を推進するとともに、資格取得等で12名が教育長表彰を受けた。</p> <p>7 通知表の通信欄の改善や電話応答終了時刻の設定等の業務改善を進め、退勤時間が全体に早まるなど教職員の意識改革が進んだ。</p> <p>（課題）</p> <p>1 学舎制の実施に向けて、久美浜高校・久美浜学舎と一層緊密に連携を図る必要がある。</p> <p>2 地域の中학생から選ばれる魅力ある学校づくりと一層積極的な情報発信を行う必要がある。</p> <p>3 1・2年次から進路意識を高めるとともに、新しい大学入試に対応した実践力の養成が必要である。</p> | <p>1 久美浜高校・久美浜学舎との緊密な連携を図り、遠隔教育システムの活用、農商連携、合同部活動に向けた準備等、学舎制の体制整備を進める。</p> <p>2 産官学連携による地域創生教育を推進し、地域の将来を担う人材を育成する。</p> <p>3 オリンピック・パラリンピック教育推進校として、スポーツをとおして共生社会を目指す教育を一層推進する。</p> <p>4 広報活動の充実を図り、本校の特色・魅力を発信し、積極的な生徒募集を進め、本校を第一志望とする生徒の増加を図る。</p> <p>5 ICT活用やアクティブ・ラーニングによる授業改善や総合的な探究の時間における探究活動の充実を図り、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。</p> <p>6 学校行事・部活動・ボランティア活動等をとおして主体的に考え、行動する生徒の育成を図る。</p> <p>7 いじめには組織的に対応し、予防や早期発見・解消に努める。また、情報モラル教育の徹底を図る。</p> <p>8 3年間を見通した系統的な進路指導により、進路意識の向上を図るとともに、希望進路実現のための基礎・基本の徹底と実践力の養成を図る。</p> <p>9 「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」を踏まえ、コンプライアンス意識の向上や新学習指導要領への対応等、ステージに応じた教職員の資質能力の向上を図る。</p> <p>10 教職員の働き方改革を進めるために、教職員の意識改革と業務改善を一層推進する。</p> |

評価は、次のA～Cの3段階で表記しています。（ただし、未実施であるため評価できない項目については評価欄に「－」と表記しています。）

A 十分達成できている。 B：概ね達成できている。 C：あまり達成できていない。

| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 |
|-------|------------------------------|--|----|---|--|--|
| 特色化事業 | ・広報活動の充実 | ・広報紙とホームページにより本校の教育活動の特色・魅力を広く発信する。 [ホームページの更新回数週5回] | B | B | C | ・感染防止のため教育活動が制限される中、ホームページは平均週5回の更新が実施できている。授業・部活動 ・検定結果等の日常の活動を発信することも進めていきたい。 [ホームページの更新回数平均週5回] |
| | ・地域創生の取組とオリンピック・パラリンピック教育の推進 | ・地域と連携した活動に主体的に取り組むとともに、地域の魅力や課題に気づき、その発信や課題解決に取り組む。 [TACの取組年間6回以上] | C | C | C | ・地域のイベントが中止となる中、活動ができていない。今後、実施可能なところから取り組んでいきたい。 [TACの取組0回] |
| | | ・パラリンピック種目をはじめとしたアダプテッドスポーツ等の理解を深め、障害の有無にかかわらず誰もが共に楽しめるポッチャを体験する。 [生徒のポッチャ体験者の割合100%] | C | | | ・感染防止策を取りながら、まず、体育授業や学年・クラス単位等の校内での活動を進め、全生徒がポッチャを体験するよう進めたい。 [生徒のポッチャ体験者の割合0%] |
| 組織・運営 | ・学舎制の実施にともなう体制確立 | ・学舎制に実施にともなう体制の確立を図るとともに、久美浜高校・久美浜学舎と連携した取組を計画・実施する。 [学舎間連携の取組年間7回以上] | C | C | | C |
| | ・教職員の資質能力の向上 | ・本校の教育課題への対応と教職員のステージに応じた能力向上のための研修の充実を図る。 [センター研修の受講延べ数30回以上] | C | C | ・ICT活用をテーマにした研究授業で参観者が平均10名を超える等、資質能力の向上に向けて意識が高まっている。新学習指導要領や観点別評価の実施に向けた研修も必要である。 [センター研修の受講延べ数2回] | |
| | ・教職員の意識改革と業務改善による働き方改革の推進 | ・業務改善アンケート等を実施し、業務の見直し効率化を進めるとともに、19時30分までの退勤を目標とする。 [19時30分退勤率90%以上] | C | | ・在宅勤務や部活動が制限されていた期間もあり、数値だけでは比較しにくい。退勤時間に対する教職員の意識は定着してきている。実質的な業務改善につながる工夫も必要である。 [19時30分退勤率72.3%(昨年同期68.%)] | |
| 学習指導 | ・生徒の主体的な学びの支 | ・アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の主体 | B | B | B | ・グループワークや発表等アクティブ・ラーニングの要 |

| | | | | | | |
|------|------------------|--|---|---|---|--|
| | 援 | 的な学びを深めさせる。 [授業評価アンケートでA・Lの視点を取り入れた主体的な学びが工夫されているによくあてはまると回答した生徒の割合75%] | | | 素を取り入れる授業が増えている。引き続き研究授業の参観を推進していきたい。 [授業評価アンケートでA・Lの視点を取り入れた主体的な学びが工夫されているによくあてはまると回答した生徒の割合66%] | |
| | ・効果的な授業に向けた取組の推進 | ・ICT機器や遠隔教育システムの積極的な活用を推進する。 [ICT機器及び遠隔教育システムを活用した教員の割合90%] | B | B | ・臨時休業によってICT機器の活用が加速された面もあるが、タブレット等を活用した授業が増加している。感染防止対策としても遠隔教育システムの2教室が有効活用されている。次年度からの単位認定を伴う遠隔授業の実施に向けた準備を進める必要がある。 [ICT機器及び遠隔教育システムを活用した教員の割合69.7%] | |
| 生徒指導 | ・生活や態度を調整できる力の育成 | ・社会人としての「あいさつ、身だしなみ、礼儀・マナー、5分前行動」等の指導を全教職員で行う。 ・自分の身は自分で守る、危険回避の行動がとれる力をつけさせる。情報モラルに関する講演会・交通安全の取組を実施する。 [交通事故・遅刻ゼロ] | B | B | B | ・社会人としての対応は、不十分な面もあるが、身だしなみ等はほとんど指導がない。5分前登校の遅刻予防指導も効果を上げてる。 ・危険回避行動に繋がる指導は、自転車施錠や朝の立ち番等で啓発を行っている。 ・情報モラルについては、SNSによるトラブルがあり、講演会の実施等継続的な指導が必要である。 [交通事故1件・遅刻3回] |
| | ・心と体を調整できる力の育成 | ・部活動加入率を維持しながら、体力や感性を育成する。 ・生徒会活動(専門委員会)活動の見直し。 [部活動加入率80%以上] | A | A | ・部活動加入率はほぼ維持できている。 ・感染防止のため行事等に制約がある中で、実施可能な方法を考え取り組んできた。学芸・保健・美化・放送の各委員会は積極的に活動している。 [部活動加入率88.7%以上] | |
| | ・人間関係を調整できる力の育成 | ・いじめを見逃さず、早期に対応するために、生徒の情報を教員で共有する。 ・地域貢献・キャリア教育につながるボランティア活動に積極的に参加させる。 [ボランティア活動の年間参加延べ人数1,000人以上(網野学舎との合計)] | C | C | ・生徒情報の共有は、教育相談・いじめ対策会議で交流している。 ・地域イベントの中止や感染防止の観点から、対外的なボランティア活動は、参加が困難な状況であった。今の状況に応じた実施が可能な取組や生徒のにとって有意義な活動の機会を検討する必要がある。 [ボランティア活動の参加延べ人数154人] | |
| 進路指導 | ・主体的なキャリア意識の育成 | ・生徒、保護者に対して大学入試改革等に関する最新の情報を提供する。 | B | B | B | ・予定していた進路行事が実施できないこともあった。今後、面談など実施可能な取組を進め、進路意識の向上 |

| | | | | | | |
|--------------|----------------------------------|--|---|---|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・進路選択、職業選択が主体的にイメージできるよう各種進路行事の実施と担任、チューター、進路指導部員等によるきめ細かな面談を実施する。 [進路希望未決定者人数2年生0人] | | | <p>を回り、進路希望未定生徒を0人に近づけたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA進路講演会を実施し、大学入試改革等の情報を提供したが、参加保護者が少なかった。 [進路希望未決定者数、2年生1人(9月現在)] | |
| | ・希望進路の実現 | <ul style="list-style-type: none"> ・就職講習や模擬面接等、早期からの就職指導を充実させる。 ・授業、進路講習、小論文指導、面接指導等を一体的に行う。 [就職内定率100%、最終進路希望調査の進路実現率90%] | — | — | <ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の実現に向け、学校全体として小論文指導や面接指導などに取り組んでいる。 ・2年生から、機会があればオープンキャンパスや体験等への参加を進める必要がある。また、地域の企業への見学も検討したい。 [1次応募の民間就職内定率100%] | |
| 保健・安全 教 育 | ・健やかな心身の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症防止の対策と指導の徹底を図る。 ・外部機関と連携した講演会を実施する。 ・生徒保健委員会による健康啓発活動に取り組む。 ・SCを活用した教育相談を積極的に取り組む。 [講演会2回、保健委員会の活動2回] | B | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の検温等の健康観察がオンラインで実施できている。今後、インフルエンザも含めて感染症の予防啓発に努めたい。 ・美化委員会を中心に清掃活動が充実できている。保健委員会も健康啓発運動に取り組めた。 ・外部機関を活用した講演会が実施できず、方法を変えて今後実施したい。 [講演会0回、保健委員会の活動4回] |
| | ・安全意識の向上と危機対応能力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を実施する。 ・自転車安全推進員講習会の実施と推進員による安全啓発活動に取り組む。 ・体育・部活動における怪我予防に取り組む。 [防災訓練2回、自転車安全推進員講習会1回] | B | B | | <ul style="list-style-type: none"> ・自転車安全推進員講習会を実施し、安全啓発に取り組んでいる。 ・防災訓練は1学期には実施できなかったが、11月に実施の予定である。 ・8月後半から9月にかけてけがの発生が多かった。 [防災訓練0回、自転車安全推進員講習会実施] |
| 人 権 教 育 | ・生徒の人権意識の高揚と人権問題の解決に向けた具体的な行動の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習や日々の様々な活動を通じ、人権問題を正しく理解させる。 [人権に関するホームルーム各学年2回以上実施] | B | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、障害者問題、部落の歴史、就職差別について人権学習HRを実施した。2回目を、2年生は2学期後半に、3年生は3学期に行い、正しい理解をさらに深めたい。 [人権HR各学年1回実施] |
| | ・教職員の認識の深化と指導力向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・新たな差別解消法制定等の状況を踏まえた校内教職員研修を1回以上実施する。 [研修実施回数] | B | B | | <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育に関する教職員の意識調査結果報告書も踏まえ、同和問題について研修を実施し、同和教育の成果と手法を再確認するとともに、教職員の人権意識の高揚を図った。 [教職員研修1回] |

